

デジタル化計画書

2023年10月

社会福祉法人 なごみかぜ

令和5年度 袋井市中小企業等デジタル化促進事業

ありたい姿整理シート

経営理念	現在地（これまでの成果）		少し先に予想される変化（5年程度先）	
障がいのある人が、生まれ育った地域で暮らし続けるために必要な福祉サービスを提供する。	お客様からの評価	障がい福祉事業に、熱心であると評価されている。	お客様の变化	送迎の有無等がサービス利用決定の際の判断材料として優位になっている。
	自社の競争力	質の高いサービス提供にあたって、組織として連携および研修が充実している。	競合他社の变化	株式会社の参入が増えている。
	スタッフの力	年齢的に若年層が少なく、中間層以降が圧倒的に多い。	スタッフの变化	法人設立から18年が経過し、高齢化が進んでいる。

ありたい姿	その未来を実現するための必達目標		デジタルを活かすポイント	優先順位
事務の標準化の先に、支援分野も業務の標準化をすすめ、全スタッフ参加型の法人経営にしていく。	P 顧客・商品・販路			
	D 業務プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・事務作業の中でも給与計算業務の効率化が優先課題となっている ・事業許認可が異なる複数事業所を兼務するスタッフは事業所をまたがった労務管理が必要 ・労働単価は業務ごとに異なり（例：運転業務）、時間帯割増とは異なる業務割増も発生する 	勤怠管理と給与計算を省力的に行えるパッケージソフトを選定して活用する	1
	C 記録・計測			
	A 組織の成長			

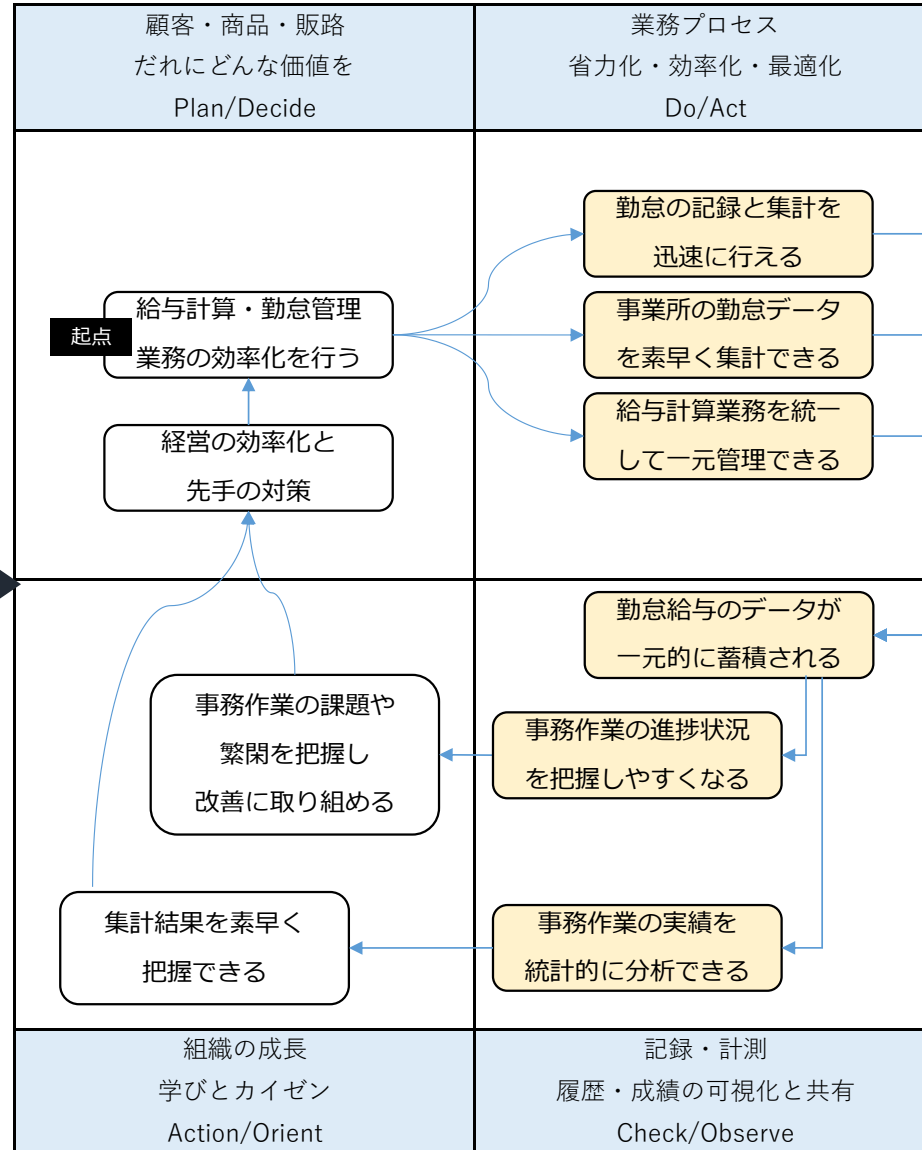
給与計算の事務作業を自動化して効率化したい

→ 勤怠管理と給与計算業務を統一し、業務データの一元化を実現しよう

<現状>

顧客・商品・販路 だれにどんな価値を Plan/Decide	業務プロセス 省力化・効率化・最適化 Do/Act
給与計算結果や総労働時間の確認に時間がかかるため、適時適切な対策をとれず、経営的に後手を踏むことが多い	二重入力や転記作業などの手作業が多く、事務作業に多くの手間と時間がかかっている 担当者が個別にExcelで業務をしていて、属人化している
給与計算結果や総労働時間の確認に時間がかかる	各事業所から順次データが集まり、確認と集計に時間がかかる 事業所をまたがった総労働時間の把握が迅速に行えない
組織の成長 学びとカイゼン Action/Orient	記録・計測 履歴・成績の可視化と共有 Check/Observe

<改善後>



<実現ステップ>

**改善のターゲットを
決める**

業務上の負荷が高い給与計算業務の省力化に優先課題として取り組む。
導入対象の事業所を対象人数や業務の複雑さ、今後の事業展開などを考慮して決定する。

**納得できる
システムを選ぶ**

既存のITベンダーを主軸として情報収集し、必要な機能を見極めて、適切な投資計画となるシステムを選定する。
既存の給与計算システム（ミスヘルパー）と連動させる方法で勤怠管理のシステムを追加導入する方向とする。

**同時に業務を
レベルアップする**

事前に入念な試験利用を行って、運用をカバーできることを確認する。

これまでは確認に手間取っていた事項をリアルタイムで確認できるようになることで、業務の質の向上を図る。

リハサールと切り替え

新システムを使い始めるために必要な環境準備やマスタ設定、入念なテストを計画的に実施する。

システムは仕事のための新しい道具であるから習熟期間は不可欠。知る、慣れる、理解する、を計画的に進めていく。

切り替え時には、業務を一定期間停止したり、データを凍結する対応が必要になることも考慮する。

<ITツール>

勤怠入力から給与計算までが連動しうる
パッケージソフトによりデータを一元管理
して業務の省力化を実現する。